カトリック高松教区報

2005年1月30日（第105号）
発行所 カトリック高松司教区
広報委員会
〒760-0074
高松市桜町1-8-9
TEL　087-831-6659
FAX　087-833-1484
Email　tkcuria@mxi.netwave.or.jp

ワールドユースデーへのおさそい

二〇〇五年教区報の第一回発行に際して多くのことを考えました。しかし、期日が迫っているワールドユースデー（ＷＹＤ）へのさそいを優先させました。なぜなら、私は高松教区の緊急課題で最優先させるものは青少年の育成にあると信じているからです。これについては司祭評議会においても、信徒使徒職協議会においても私が強調した点です。

ＷＹＤは一九八六年に教皇ヨハネ・パウロ二世が青年に呼びかけて始まったもので、二〇〇五年にはドイツのケルンにおいて第二〇回大会が行われます。世界の青年が集まり、自分の信仰を確かめ、深める場となっています。また信仰体験を通して、現代社会に青年としてどのように生きていくかも考えさせる素晴らしい時でもあります。今回は「わたしたちはイエス様を拝みに来ました」という東方の三人の賢者のことばにある通り、キリストに従う私たちの歩みを黙想し、考えることになっています。キリストとともに歩むことを通しながら、自分の人生を振り返る最高の時と場を提供するのが今回の世界大会です。そのために前回のトロント大会より、特別にカテケージス（教理解説）が巡礼団に組まれ、内容を充実したものにしています。また世界各国の青年との交わりの中で、文化的違いや国籍を乗り越えた信仰者としての共通体験を分かち合うことができます。ＷＹＤに参加した青年がどれ程変わり、教会を下から揺さぶったかは仙台教区の例から確信をもって伝えることができます。

私の着任が急であったことや青少年委員会発足に時間がかかったことで、高松教区においては大会準備の時期が遅れてしまいました。司祭評議会で青少年委員会を発足させることを決定したのが一二月、担当司祭の集まりを開催したのが一月五日であり、遅ればせながらケルン大会に向けて歩むことを決議しました。要項は主任神父様、並びに信徒会長宛てで各教会に送りました。是非教会単位で検討してくださることをお願いします。

高松教区司教　溝部　脩

ＷＹＤケルン大会のシンボルマーク

はばたき

◆二〇〇五年が明けた。玄関先のツバキが白とピンクのまだらの花を咲かせ始めた。これからひと月、寒さの中でかれんな姿を見せ続けてくれる◆それにしてもスマトラ沖地震の被害は大きかった。死者一五万人以上という未曾有のものだった。予想もしなかった大きな津波に人々は逃げまどった。神様は人間に何を問い掛けているのだろう◆元旦のミサで、この被災者たちと新潟地震の被災者のために祈った。昨年の世相を表わす漢字は「災」だったが、今年はそうならないことを望む◆さて年頭書簡で溝部司教は、最大の課題は『一致への歩み』だと述べられた。「神の前で」「司教と共に」ねばり強い対話が必要だろう。今年は聖体の年。共にいて、生かしてくださるキリストの中で、一致を深めていこう。

司祭評議会報告

二〇〇四年一二月七日第一回司祭評議会が開催された。次の議案が討議され、決議された。

1　司祭評議会について。司祭評議会は年に八回開催する。司祭評議会は司教を補佐する大切な機関であり、ある事柄に関しては司教は必ず諮問する。

2　教区委員会について。委員会があって教区を活性化できるという観点から、教区委員会の構成、内容を検討した。広報委員会と青少年委員会を早急に立ち上げる。広報委員会の顧問司祭は事務局長浜口末雄師、青少年委員会の委員長はジュード・ピリスプッレ師。教区の典礼の統一を計るために典礼委員会を発足させる。委員長は教区会計浜口秀昭師。社会問題、並びに人権に関して教区の意識を高めるために正義と平和委員会を発足させる。同委員会は部落問題、移住移動問題、平和旬間のことなども取り扱う。同委員長は栃尾泰英師。

3　司教教書作成について。司祭評議会において司教教書の概要を共同で作成する。これによって司教教書の重みを増し、司祭評議会が教区統治の共同責任を負うことになる。

4　司祭集会と司祭研修会について。六月に一泊二日の研修と交流を兼ねた集会をもつ。

5　教区の日開催について。九月一九日（月）敬老の日に愛媛地区の適当な場所を借りて行う。信徒使徒職協議会に連絡して決定する。

溝部　脩

青少年委員会報告

一月五日（水）、第一回青少年委員会が開かれた。そこで扱われた議題は次の二点である。

一　高松教区の青少年活動を活性化するために。

1　青少年司牧活動を高松教区の優先課題と位置付ける。司祭評議会においても、信徒使徒職協議会においてもその必要性を強くアピールする。

2　二月中に第二回青少年委員会を開催する。それには各県担当司祭は二名、または三名のアシスタント（協力者）を選んで参加させる。その場で教区の青少年運動をどのように有機的に、また効果的に盛り上げるかを検討する。第三回委員会には更に青年リーダーを招集し、参加者の数を増やしていく。どこかの時点で教区単位の何かの集まりができるかを検討する。

3　青少年部門の基金をつくる。これについても同委員会で検討し、実行に移すべく努める。同基金を使って会合や出張の費用を捻出する。

二　世界青年大会（ケルン大会）に参加する件。

1　高松教区としては、本年八月に開催される世界青年大会へ青年を積極的に参加させることを奨励する。せめて一〇名を期待している。参加する青年は日本司教団主催巡礼への公式参加となる。

2　参加要項を各小教区に送り、青年に広く配布することをお願いする。参加希望者は各県の担当司祭にその旨を告げ、申し込み用紙に記入する。各県の担当司祭は次の通り。香川県＝ホルヘ・ソーザ師、愛媛県＝ホアン・マヌエル師、高知県＝ジュード・ピリスプッ

レ師、徳島県＝マヘル・ウイリアム師。

3　教区としては一〇〇万円の予算措置をとった。一〇名参加としても一人一〇万円程度の援助をすることができる。ただし参加費用は概算で二五万円なので、参加する青年がいる小教区には応分の援助を願う。ただし全額を援助するのは参加する青年の意識を育てるためには好ましいと思われない。青年は自分で幾らかでも払うことで大会参加の意義をもっとよく理解できると考える。

ジュード・ピリスプッレ

～◇～◇～◇～

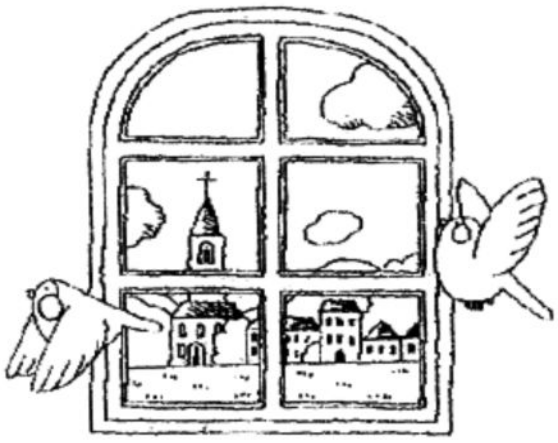
教区信徒協総会

信徒協とは、正式には信徒使徒職協議会と言いますが、これは、小教区の信徒会の会長が集まって各県に県信徒協が作られ、各県の代表と使徒職団体の代表者によって教区信徒協という組織が出来上がったものです。

教区信徒協の役員会は年に数回開催されますが、さらに各方面の代表者も加わって、原則として年に一回開かれるのが教区信徒協の総会と呼ばれるものです。

去る一二月四日から五日にかけて高知中島町教会で総会が行なわれました。この議事録は（役員会も同様ですが）各小教区に送ってありますから、掲示板などを是非ご覧になって頂きたいと思います。

さて、二日間に渡って続いた協議事項は、議事録を読んで頂くとして、今回の総会は着座式後の新しい司教様、溝部脩司教様のもとで行なわれたという大きな意義をもったものでした。この会で、司教様はこの教区に何を望まれ、どのように司牧されようとしているかをはっきりとお話なさいました。要約するとそれは次のような内容です。



溝部脩司教様のお話の要約

◇この教区での最も大きな目標として、「多様性の中の一致」を掲げたい。

◇教区は司教が全てを司るのではなく、司祭評議会と司牧評議会（信徒協）の意見を聞きつつ司牧する。

◇事務・会計を正常化する為に事務局を充実する（事務局長・会計担当者を新採用）。尚、教区の会計は信徒たちのお布施によって成り立っているが、このままでは二～三年で成り立っていかなくなる。

◇司教の意向を伝え、信徒の意見を司教に反映させる手段として教区報の復興をはかる。

◇青少年教育に全力を注ぎ、召命活動を活性化する。（今年八月に、ケルンで開催される世界青年大会への参加を目指す。）

総会に参加した役員は一様に司教様の人となりと意気込みに感動し、また司教様の意向が実現するように手足となって活動しなければならないという決意を新たにしました。

教区信徒協会長　田井貞良

各地区情報

シルバー神父様金祝

阿南教会主任司祭シルバー神父様の叙階五〇周年の記念ミサと祝賀会が、昨年一一月二八日（日）徳島教会で行われた。阿南、鳴門、徳島の信徒約七〇名が集い、溝部司教様も参加してくださって「シルバー神父様、長い間日本の教会で働いてくださってありがとうございました。その流暢な日本語と日本人を深く理解する態度、私は尊敬して止みません」とお祝いの言葉を述べられた。

シルバー神父様は一九五四年五月三〇日、ワシントンのオブレート会大学院で叙階され、数ヵ月後念願どおり日本へ派遣。東京、伊丹、徳島、鳴門、そして阿南教会に赴任。鳴門では三九年間、主任司祭と幼稚園園長を務められた。阿南は今年で八年目になる。神父様は「オブレート会の宣教師精神のもとでこの五〇年間私なりに精一杯やってきました。成果は神様にお任せしたいと思います。多くの信徒の喜び、悲しみを体験したことは私の大きな慰め、力となりました。一般の友人を得たことは、大きな励みとなりました。二五年間アメリカで支援してくださった方たちと、五〇年の間、日本での生活を支えてくださった方たちに心より感謝しています。神と皆様に感謝です」と話された。信徒一同は「司祭のための祈り」を唱え、感謝をこめて花束、金一封を贈呈した。

祝賀会ではケーキカット、食事ののち信徒有志によるピアノと歌、司教様は童謡を、司祭方もそれぞれに美声を披露され、最後に万歳三唱で会を締めくくった。

徳島地区　高田芙美

～◇～◇～◇～

マリッジエンカウンター（ＭＥ）の集い

丸亀市内を車で走っていると、居酒屋の看板「まぜよるがな」が目についた。「まぜよるがな」というのは、誰でも仲間に入れて一緒に寄せ合い、交じり合うという意味らしい。

私は入ったことがないので人に聞いてみると、そこでは仲間が集まって好きな酒を飲みながら、寄せ合い、交じり合い、本音で分かち合っていると言う。そこに集う人達の気持ちは、正に信者の夫婦、神父、ブラザー、シスター達が共に集い、様々な関わりを本音で分かち合っているＭＥの分かち合いに通じるものがあるように思う。

ＭＥ四国コミュニティは、一七年前高松教区の支援を受けて始まったが、初めは一人の神父と三組の夫婦の集まりであった。しかし、機会あるごとにいろいろな教会を訪ね、「私達と一緒に、愛し合う夫婦の歩みをしませんか」と呼び掛けた結果、今は一五組程の夫婦に増え、ようやくその小さな芽が見え始めたように感じられる。

昨年の九月には、ＭＥの歩みのスタートとなるウィークエン

ドが五年ぶりに北条のカタリナセミナーハウスで開催された。この時も、準備や歓送迎を多くの仲間達が熱意を持って支えに回ったので、参加者一同感謝と喜びが織りなす素晴らしい時を過ごす事が出来た。

ウィークエンドは、家庭や社会の中にある様々な関わりの基礎となっている夫婦の関わりを深め、①自分と配偶者との関係、②自分達と神との関係、③自分達と周囲の人々との関係を大切にして、より良く生きようとする人生の愛の旅路が示されているように思う。

２００４年9月 MEウィークエンド
聖カタリナセミナーハウス

ウィークエンドの貴重な体験をしたＭＥの仲間は、二ヶ月に一度の集いを心待ちにしている。集いでは日常生活の中にある喜怒哀楽の感情を、みんなが有りのまま素直に分かち合っている。この分かち合いを心の奥から出てくる祈りとして傾聴していると、自分の感情まで、一人ひとりの心の中におられる神の働きかけによって癒され喜びへと変えられていくように感じられる。

二〇〇五年を迎えた今、念ずれば通ずるの言葉の如く四国に住む多くの夫婦や神父様が、同じ信仰の下、気楽に参加出来るウィークエンドを定期的に開催する事が出来ますように、重ねて貴重なこの紙面をお借りしてＭＥに対するご理解とご支援をよろしくお願いします。

ＭＥ四国コーディネーター
丸亀教会　須山二朗・京子

聖ドミニコ会宣教修道会の黙想会に参加して

昨年（平成一六年）一一月六日、七日と北条のカタリナ学園セミナーハウスで、ファン・マヌエル師の指導で、黙想会が行われた。

主に、若い女性のためのものだったかもわからないが、私も参加させていただいた。

七名の方々と共に、それとドミニコ宣教修道女会のシスター方と楽しく歌い、祈り黙想の時間が持てたことは、幸福であった。

テーマは、「主よ、私の小径を教えてください」というので、

青年会コーナー

四国の青年会は、社会人が多くを占め、大学生は県外生がほとんどで卒業後、地元に帰ることが多く、なかなか継続して活動していける青年が少なくなっているなか、なんとか集まって活動を続けています。

昨年は、丸亀教会でのあっちこっちミサに始まり、高知での青年ミサ、徳島「ピース９の会」講演会、岡山合同キャンプと精力的に活動することができました。今年も、四国四県、交流を深めながらさらに活発に活動していきたいと思っています。

高知中島町教会青年会　谷脇孝延

召命を確かめ、主と共にいることの幸せを感じた。

出会った人々は、はじめてであっても、それぞれが、同じキリストに呼ばれて、ミサに与りご聖体拝領ができる友であることを確認した。

文通を約束して別れた方から間もなく便りが来た。

こういう集いがあれば、又、参加したいと思った。

中島町教会　横田万里

～◇～◇～◇～

高知中島町教会では

当教会では、二ヶ月に一回評議委員会を開き、行事予定や各種協議を行っている。

Ｐ・ジュード神父を中心に、典礼・広報・福祉・研修・財務・教会学校・青年会・建設・企画の各委員会から成り、熱心に時には激論を交わし、教会の運営に奉仕している。

広報誌としては「ノア」を発行している。

昨年は聖堂・司祭館・修道院などの補修工事が信徒の浄財で行われ、第一段階の建設工事ともいえるプロジェクトが終わったところであるが、今後は来る南海地震に如何に備えるかとの、これまた大きなプロジェクトに立ち向かうことになる。

しかし、目下は高松教区維持財政に力を振り向けることを皆で確認し合っているところである。

他の小教区同様、高齢者が多数を占めているが、昨年度教会での受洗者は六名、結婚式は四六組というところである。

南国高知の抜けるように青い空に映える白亜の聖堂は、高知市の中心部にあり、巡礼教会にもなっていて、多くの信者が訪ねてくださる。

中島町教会
信徒会長　梶原良信

～◇～◇～◇～

司　教　日　程

２月３日	常任司教委員会
５日	日本26聖人殉教祭（本所教会）
８日	司祭評議会
11日	広島殉教祭
13日	番町教会黙想会
14～18日	司教総会
19日	東京教区幸田補佐司教叙階式
27日	中島町教会黙想会
３月３日	常任司教委員会
６日	行橋教会黙想会
10日	カタリナ短大卒業式
11日	宮崎カリタス会総会
12～13日	徳島教会黙想会
19日	神学生認定式
23日	聖香油ミサ
27日	復活祭

教区報発行の喜び

†　主の平安

広報委員会も発足し、教区報に殊更力点をおく溝部脩新司教の下で、新年度第一号が、創刊号とも云えるこの教区報が出されるのは、なんとも喜ばしいことである。

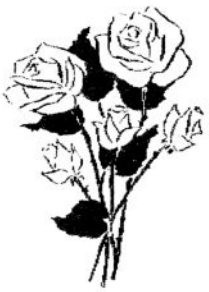
教区報で、司教の司牧方針が常に示されるし、教区民は迷わずに従っていくことができる。

追い追いに紙面は充実していくことと思うが、他教区又は、充実した小教区の広報誌なども参考にしながら、教区民の関心と負けん気を呼び起こし、高松教区を盛り上げていきたいものである。それには、多くの読者と、編集委員会を悩ませるほどの、多数の投稿を期待している。互いに情報を交換しながら、それぞれの小教区が発展していけば、目的の一部は満たされる。

目下は年四回の発行に留まるが、資金も獲得し、毎月の発行を早期に達成したい。

地区担当委員の一人として、年頭に思うことである。

高知地区担当委員　岡副俊雄



愛媛地区小教区だより

私たちの小さな教会のメンバーが何年かぶりに増えそうです。男女各一名の洗礼志願者がいます。神父様をはじめ、信徒一同応援しています。

今年は、布教活動に頑張るぞー。

（カトリック伊予三島教会）

昨年は記念すべき教区百周年と溝部司教が着座され、教区に画期的な風が教区報を通じて感じ、身の引き締まるのを覚えます。

司教様の指導の下で一歩一歩と進めたい。

（カトリック新居浜教会）

祈りのうちに、あらためて自ら（自分自身、信仰、教会、教会共同体の中の自分）を見つめ直し、考える年に。

（カトリック西条教会）

昨年五月、ローマの教会から宣教家族として、ガエタノ夫妻と愛らしい三人の子供達を迎えた。

一八号台風で傷んだ教会の屋根修復工事がみんなの一致協力で、降誕祭前に完成。

（カトリック今治教会）

元旦ミサで津波・地震の被災者のために祈る。一月は信徒総会と新年懇親会が続く。月末には教会守護の聖人トマス・アクイナスの祝日を記念し行列を予定。

（カトリック道後教会）

どの人も心の癒しを求めなければ、生きていくのが困難な時代。

イエス様、マリア様の慈悲、優しさのうちに生きている心の喜びが、他人に旗幟鮮明に察知できる言動一致の人になりたい。

（カトリック松山教会）

神の道を聖霊の導きで共に歩みたい人を歓迎しよう。若者を待ち望む。待っていては誰も訪れない。神の道の偉大さをたくさんの人に伝えたい。

（カトリック郡中教会）

とても小さな教会ですが、家族的な雰囲気です。

イグナチオ神父様を助任司祭として迎え、新たな気持ちで頑張っていきたいと思います。

（カトリック八幡浜教会）

昨年は主任司祭の重なる異動や、教会のドミニコ会から教区への移管など激動の一年であった。

老人化「夕暮れ状態」から「あけぼの」を目指すためには若い人が大勢いなければ、将来、教会共同体の維持発展はない。現実を直視し、勇気と知恵を持って問題解決に立ち向かいたい。

（カトリック宇和島教会）

高松教区広報委員会発足

二〇〇四年一二月一八日に高松教区広報委員会発足会が開かれ、『二〇〇五年司教年頭書簡』に書かれている主旨で教区報を発行することになりました。

高松教区広報委員会において左記の委員が溝部司教様より任命されました。

委員長　和泉文男（桜町教会）
副委員長　田井貞良（桜町教会）
技術担当　長谷川聖（桜町教会）
書記　中川修栄（桜町教会）
会計　住吉才子（番町教会）
地区担当委員
今泉芳純（郡中教会）
岡副俊雄（中島町教会）
高田芙美（徳島教会）
多田繁夫（善通寺教会）

年四回（一月、四月、七月、一〇月）発行して参ります。高松教区の皆様ご協力お願いいたします。

（住吉）

編集後記

昨年一二月に教区広報委員会が立ち上げられ、今から動き出そうとするその矢先に、和泉文男委員長が入院されました。ちょうど全日本の野球の長嶋監督のように、病室からの指示を仰ぎながらの作業でした。従って「とにかく一月中に出そう！」を合い言葉に編集を急ぎましたのでこの程度のものとなりましたが、次号からはより質の高いものにする為に皆様方のご意見を編集部までお寄せください。

なお、コラムは、長年愛媛新聞社で編集等のお仕事をされていた道後教会の丸尾修氏に依頼致しました。

（田井）

http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/committee/wyd/index.htmWＹＤケルン大会日程等

2005 年ワールドユースデー　ケルン大会　日本巡礼団スケジュール（予定）

日程	主な予定
8/ 9（火）	朝　成田組：9:20 頃　出発　→　ソウル（12 時頃着）にて乗換　（約 2 時間 40 分） 関空組：9:40 頃　出発　→　ソウル（11 時半頃着）にて乗換　（約 2 時間） 両組合流し、ソウル 13:45 頃　出発　→現地時間 17:35 頃フランクフルト着（約 12 時間） 夜（現地）　バスでルクセンブルクへ移動（約 2 時間）、ユースホステルなどに宿泊
10（水）	「ルクセンブルクにて日本巡礼団準備の日」 午前　日本巡礼団結団ミサ（ルクセンブルク大聖堂） 午後　フィアンデンの森の聖母聖堂へ徒歩巡礼 夜　聖体礼拝（この夜からホームスティなど、ルクセンブルクの受け入れ場所に宿泊）
11（木） ～14（日）	「出会いの日々」（ルクセンブルク国内の各地でホームスティ、もしくは教会施設に宿泊） コンサート、演劇鑑賞や、ホームスティ先での交わり、滞在小教区でのミサやプログラムに参加
15（月）	午前　宿泊地　→　エヒターナハト（ルクセンブルク国内） 午後　→　バスで本大会期間中の宿泊地デュッセルドルフ（ケルン教区）へ移動（約 2 時間）
16（火）	「ワールドユースデー本大会」 午後　ユース・フェスティバル 夜　ケルン大会開会ミサ（ケルン大司教区マイスナー枢機卿）
17（水）	午前　司教によるカテケーシス・ゆるしの秘跡 午後　ユース・フェスティバル
18（木）	午前　司教によるカテケーシス・ゆるしの秘跡 午後　教皇歓迎式典　夜　ユース・フェスティバル
19（金）	午前　司教によるカテケーシス・ゆるしの秘跡 午後　十字架の道行き
20（土）	午前　徒歩巡礼で教皇ミサの場所へ移動 夜　教皇と共にタベの祈り
21（日）	午前　教皇司式ミサ
22（月）	「日本巡礼団振り返りの日」 大会を振り返りながらの、祈りと分かち合いの日（日本巡礼団のみ）
23（火）	ケルン教区との交流の日
24（水）	午後　滞在地デュッセルドルフ　→　列車でフランクフルトへ移動（約 1 時間半） 夜　フランクフルト 19:55 頃　出発　→　ソウル（25 日 14:25 頃着）にて乗換（約 11 時間） 成田組：ソウル 18:40 頃　出発　→　9/25（木）20:50 頃　成田着（約 2 時間） 関空組：ソウル 19:05 頃　出発　→　9/25（木）20:45 頃　関空着（約 1 時間半）

日程は下記４つに分かれています。いずれかを選んでお申込みいただきます。

A）2005 年　8 月 9 日～ 8 月 25 日（ルクセンブルク　＋　本大会　＋　ケルン教区交流会）
B）〃　　8 月 9 日～ 8 月 23 日（ルクセンブルク　＋　本大会）
C）〃　　8 月 15 日～ 8 月 25 日（本大会　＋　ケルン教区交流会）
D）〃　　8 月 15 日～ 8 月 23 日（本大会のみ）

概算旅行代金 A,B（24 万円）　C,D（25 万円）

参加資格（大会参加時点で）

- 年齢：18 才（高校生を除く）～35 才まで（アシスタントの年齢制限なし）
- 国籍：不問（但し、国籍によってドイツ入国の査証が必要となります。申込書に必ず国籍をお書きください。

≪受付から参加確定までの流れ≫

（現在計画中の大まかな手続き日程です。状況により一部変更の可能性がありますのでご了承ください。）

①参加希望者
↓
②WYD教区窓口に申込み　（大会申込書提出）（2005 年 2 月 28 日締切り）
（窓口がご不明の方は WYD ケルン大会日本事務局 03-5632-4480 までお問合せください。）
↓
③申込金（10,000 円）の振込み　（2005 年 3 月 10 日頃～3 月 31 日頃支払い期日迄）
2005 年 3 月 10 日以降に請求書を発行しますので、日本事務局にご入金ください。
入金確認され次第、大会参加が確定します。
↓
④旅行申込書・旅行代金（概算 25 万円）請求書　配布（配布予定 2005 年 5 月上旬）
旅行申込書は記入後、旅行会社に提出
旅行代金は旅行会社にご入金ください。

【その他】
・パスポートは各個人で用意してください。
（有効期限にご注意ください。）
・ドイツ入国査証の必要な方、日本再入国許可証の必要な方は、それぞれ取得の手続きを行います。
（国籍によって異なります。）

WYD ケルン大会参加に必要な費用
- 大会申込金…… 10,000 円　（支払時期目安：　～2005 年 3 月 30 日頃）　日本事務局に入金
- 巡礼旅行代金… 概算 25 万円（支払時期目安：　～2005 年 5 月 31 日頃）　旅行会社に入金

注意：　申込金は大会本部との連絡や、連帯金[注]、日本事務局から申込者への連絡通信費等の諸経費になり、旅行費用には充当されません。

振込み後のキャンセルがあっても、返却できませんのでご注意ください。

ご質問がございましたら、WYD ケルン大会日本事務局まで！

電話　03-5632-4480　　FAX　03-5632-4465　　E メール　wyd@cbcj.catholic.jp

[注] 連帯金は、恵まれない国からの参加者援助。参加者ひとりあたり 10 ユーロを教皇庁信徒評議会に納めることになっている。